

令和3年度 血液事業概要

あゆみ

第71号 令和4年7月

目次

所長あいさつ	2
令和3年度 新聞記事	4
沿革	6
組織体制	14
献血の概況	16
献血推進の概況	18
骨髄ドナー登録事業	21
検査・製剤の概況	22
供給の概況	24
医薬情報活動の概況	25
統計資料	26
令和3年度 表彰	32
令和3年度迄の献血記録	34

所長あいさつ



群馬県の血液事業の推進につきましては、日頃より県民の皆様をはじめ、献血協力団体、ボランティア、県・市町村、医療機関及び関係各位の方々にご支援ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。令和3年度も多くの献血者にご協力をいただき、県内医療機関からの輸血用血液製剤の要請に滞りなくお応えすることができました。

また、献血会場における入場制限、アルコール消毒及びマスクの着用など、新型コロナウイルス感染症感染予防対策へのご理解とご協力につきましても重ねて御礼申し上げます。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により年間61会場で献血が中止されました。また、テレワークの推進やリモート授業の実施などにより、献血バスで企業や学校に伺っても例年より献血協力者が少ないという状況が多く見受けられました。このような傾向は群馬県だけではなくむしろ首都圏で強く表れ、全国的な輸血用血液製剤の在庫減少を招いた時期もありました。そのため、群馬県では代替会場を確保するために多くの献血協力団体、役所及びショッピングセンターなどに急遽献血協力の依頼をさせていただきました。また、電子メール等による献血依頼により、令和3年度に群馬県で延べ93,199人（前年度比101%）の献血者にご協力をいただきました。

令和3年度における輸血用血液製剤の年間換算供給本数は286,097単位（前年比96.8%）でした。緊急事態宣言中の手術の中止や延期などにより一時的に血液製剤の使用量が減少した時期もありましたが、一年を通じて例年と大きく変わらない供給量でした。

令和3年度の医療機関からの全血製剤の400mL要請率は96.8%でした。しかしながら、実際の供給率は95.5%と要請を下回る結果となりました。医療機関からの要請に応えられるように、今後も400mL献血の推進を行ってまいります。

血液事業にとって若年層への献血啓発は大きな課題の一つです。将来の献血者確保のため、高校生や大学生のみならず、小学生や中学生に対しても献血を啓発していくことが必要です。令和3年度においては、若年層への献血セミナーの多くが新型コロナウイルス感染症の影響により実施できませんでしたが、新型コロナウイルス感染症が収束した際には、積極的に若年層への献血啓発を行っていきたいと考えております。

今後も多くの方が安心して献血できる環境づくりに取り組みながら、安全な輸血用血液製剤の安定供給と献血者の皆様の安全確保に向けて努力してまいります。

皆様方におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ここに令和3年度の実績をとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和4年4月

群馬県赤十字血液センター

所長 丸 山 健 一



伊勢崎 新型コロナウイルスの影響で献血協力が減少していることを受け、置き薬の販売業者などでつくる県医薬品配置協会（荒木揚亨会長）は1日、伊勢崎市のマーク伊勢崎で献血の協力を呼び掛けた。

新しい物客らに「献血呼び掛け」を、県医薬品配置協会が呼び掛けている。協会員12人は、買い物客らに啓発用のティッシュなどを配りながら、献血の必要性を伝え、市民らは県赤十字血液センターの専用車両で献血に協力した。写真、荒木会長は「今後も献血ルームなどを活用して多くの人に献血に協力してほしい」と話していた。

（土屋麻里）

上毛新聞 令和3年8月2日(月)

橋 第11回夏休み親子献血教室（県赤十字血液センター）が4日、前橋市の同センターで開かれ、小学生と保護者計21人が見学や体験を通じ、献血について理解を深めた。同センターの職員がクイズや映像資料で、血液の役割や献血の意義などを説明した。参加者は献血パスで献血の疑似体験をしたり、写真、血液保存庫を見学したりした。

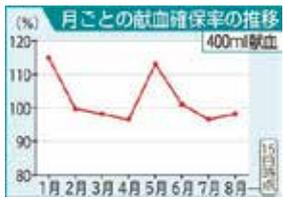
ぐんま国際アカデミー初等部6年の木村吏理さん（12）は「将来、医者になりたいので自分の体や献血の仕組みが分かって勉強になった」と笑顔で話していた。同教室は若者の献血協力を増やそうと毎年開催。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になり、2年ぶりに開かれた。献血は県内3カ所の献血ルームや移動献血車で可能。同センターが協力を呼び掛けている。（栗原綾菜）



献血の大切さ理解 親子2人

やそうと毎年開催。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になり、2年ぶりに開かれた。献血は県内3カ所の献血ルームや移動献血車で可能。同センターが協力を呼び掛けている。（栗原綾菜）

上毛新聞 令和3年8月5日(木)



新型コロナウイルス感染症の影響により県内での献血は、今月も7日時点で必要人数を満たさない状況。県内の緊急事態宣言の発令を前に、献血の減少が続けば安定的な在庫の確保が難しくなる」と懸念し、協力を呼び掛けている。

献血減少「協力を」

県赤十字センター コロナや天候影響

協力者が減少し、7月は必要人数を下回ったとして、県赤十字血液センター（前橋市）が危機感を募らせている。今月も7日時点で必要人数を満たさない状況。県内の緊急事態宣言の発令を前に、献血の減少が続けば安定的な在庫の確保が難しくなる」と懸念し、協力を呼び掛けている。同センターによると、県内の7月の献血（400ml）協力者は、必要人数の4686人に対し、確保できたのは4527人（96.6%）だった。今月（15日）時点も必要人数2803人に対し、2242人（98.2%）と下回っている。お盆期間（13～16日）に県内の商業施設に献血パスを派遣したが、見込んでいた協力者数には届かなかったという。今年2～4月も必要人数に満たなかったが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた5、

6月に改善していた。7月以降は新型コロナウイルスに加え、降雨や猛暑などの天候により外出を控える人が増えたことが減少につながったとみられる。現在は直ちに逼迫する状況ではないが、緊急事態宣言の対象地域に本県が追加されることなどにより、影響が拡大する恐れがあるという。同センターは前橋、高崎、太田の3カ所の献血ルームや献血バスでの協力を呼び掛ける。検温や消毒、室内の換気など感染防止の態勢を整えている。担当者は、コロナ下でも輸血は常に行われていて、血液は献血でしか賄えない。献血は不要不急の外出ではないので、一人でも多くの協力をお願い

（栗原綾菜）

上毛新聞 令和3年8月19日(木)

県赤十字血液センター 新型コロナウイルス感染症の影響により緊急事態宣言解除後も必要な血液量の確保が困難な状況が続いているとして、県赤十字血液センター（前橋市）が危機感を募らせ、協力呼び掛けに力を入れている。同センターによると、県内の献血パスでの10月の献血（400ml）協力者は、必要人数の2825人に対し、2675人（94.7%）だった。献血ルームでのキャンペーンなどを通じて全体としては必要人数を確保したが、コロナ下の新しい生活様式としてテレワークやオンライン授業などが定着してきたこ

献血ぜひ協力を

必要量確保困難

とで、宣言解除後も企業や学校への献血パス派遣の中止が相次いでいることが減少につながったとみられる。振り替え会場として市役所や商業施設などに献血パスを派遣し、協力を呼び掛けているが、入出が天候に左右されやすく、協力者の確保に苦慮しているという。さらに例年、冬場は体調を崩したり、寒さで外出を控えたりする人が増えることから、減少傾向が続く恐れがあるとしている。同センターは検温や消毒、会場内の換気など感染対策を徹底している点を強調した上で、前橋、高崎、太田の3カ所にある献血ルームや献血バスでの協力を呼び掛けている。7日はスマイル伊勢崎、けやきウォーク前橋、道の駅ちらん藤岡の商業施設3カ所に献血パスを派遣する予定といい、担当者は「一人でも多くの協力をお願いしたい」としている。献血（400ml）は男性は17歳以上、女性は18歳以上で体調面などに問題がない人が協力できる。新型コロナウイルスワクチンを接種しても、48時間経過後は献血できる。（栗原綾菜）

（栗原綾菜）

上毛新聞 令和3年11月7日(日)



時の話題
 生らでつくる県学生献血推進連盟 盟幹大会体委
 は19日、伊勢崎市のスマーク伊勢崎で「献血クリスマスキャンペーン」を開き、献血の協力を呼び掛けた。写真。
 △「灯そう献血の火」がスローガン。サンタクロースの赤い帽子をかぶった学生5人が「血液は人工的に作れない」「一人でも多くの人に協力してもらいたい」と、買い物客に声を掛けた。

▽冬季の献血者不足を解消しようと、全国学生献血推進連盟が取り組む活動の一端。県赤十字血液センターも、献血の協力を呼び掛けている。問い合わせは同センター（207・224・210）へ。
 （土屋麻里）

上毛新聞 令和3年12月20日(月)



生保社員ら138人 一斉に献血活動
 県赤十字センター「O型の協力を」

前橋 生命保険協会員協会の林徹郎会長は9日、前橋市の第一生命群馬支社で献血一斉活動を行った。市内に本社や営業所を置く12の生命保険会社の従業員ら138人が参加した。
 献血車同士の台が待機し、空いた時間を利用して従業員らが訪れ、問診や血液検査を受け献血に臨んだ。写真。献血バスでの乗車人数を制限するなか、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で実施した。
 同協会は年3回、県赤十字血液センターと連携して献血活動をしているが、新型コロナウイルスの影響で5月の実施予定を中止していた。同センターの担当者は「1月から医療機関からの発注が想定を上回っている。特O型の使用量が増え、協力をお願いしたい」と話していた。
 （湯沢宏志）

上毛新聞 令和3年12月10日(金)

生徒ら献血協力
 群馬自動車大

伊勢崎 安定的な血液供給に貢献しようと、群馬自動車大学校小倉基宏校長は8日、伊勢崎市の同校で献血を行い、生徒と職員計104人が協力した。写真。

敷地内に止めた県赤十字血液センターの献血バスに生徒たちが集まった。橋本暁夫校長代行は「献血活動は生徒たちにとっても協力の精神を学ぶ良い機会」と話していた。
 同校では社会貢献活動の一端として年2回、献血を行っている。



同センターの矢嶋修さんは「コロナ下で休校やテレワークによって団体の献血数が減っている。協力は大変ありがたい」と感謝していた。
 （土屋麻里）

上毛新聞 令和4年2月9日(水)

加盟社員ら献血 県内各地で協力
 県損害保険代理業協会

前橋 県損害保険代理業協会（阪本善彦会長）は4日、前橋市の前橋センタービルで献血を行い、協会加盟社員など約70人が協力した。写真。
 阪本会長は「地域に根差した組織として今後も協力を続けていきたい」と話した。5・13日に高崎市の高崎献血ルーム（ムハ）でも3月4日には太田市の東京海上自動ビルで、それぞれ献血に協力する。
 同協会は県内に本店を置く損害保険代理店など支部ごとの会員で構成。200年からの社会貢献



活動の一端で献血協力を続けており、昨年日本赤十字社から銀色有功章が贈られた。
 県赤十字血液センターの担当者は「大変のびたが、全血液型で必要量を数に達していない」と引き続き協力を呼び掛けている。
 （湯沢宏志）

上毛新聞 令和4年2月5日(土)

ユニクロで献血
 店に会場、社会貢献

藤岡 日本赤十字社による献血活動が19日、藤岡市のユニクロ藤岡店で行われ、県赤十字血液センターの職員らが来店者に献血の協力を呼び掛けた。写真。

同店の入り口近くで職員らが「協力をお願いします」などと声掛け。協力者にはユニクロのマスクと、日赤のキャラクター「ハートちゃん」のマスク用アイロンシールを配った。
 ユニクロの県内店舗のエリアマネージャー、工藤愛さんの28は「コロナ下においても、地域を広げながら社会貢献に取り組んでいきたい」と話した。
 新型コロナウイルス感染症拡大による献血協力者の減少を受け、日赤の関東中信越ブロックなどがユニクロに支援を要請。



茂原店（千葉県）を皮切りに、本県を含む1都10県の計22店舗を会場として活用し、献血活動を実施している。
 県内では26日に富岡店でも行われる。
 （村山拓未）

上毛新聞 令和4年2月20日(日)

沿革

●1962年（昭和37年）

- 8.15 県、市町村の援助により血液銀行を新築[建設面積 209.51㎡]
- 9. 1 初代所長 久保園善次郎就任（兼前橋赤十字病院院長）
- 10.20 血液銀行採血業許可証認可となる（厚生省群策第9472号）
医薬品製造業認可証認可となる（第8356号）
医薬品販売業認可証承認となる（第43号）
群馬県赤十字血液銀行の業務開始
移動採血車第1号（2ベッド）を整備
愛称を県民より募集し「（おとおね号）」と決まる
ABO式血液型（オモテ・ウラ）Rho 式血液型
梅毒血清学的検査（ガラス板法・緒方法）
O型力価測定（Low、High）実施



●1964年（昭和39年）

- 8.21 閣議決定（献血の推進について）
- 9. 肝機能検査（S-GOT）開始

●1965年（昭和40年）

- 2.13 血液銀行を血液センターに改称
- 8.13 移動採血車おとおね2号（3ベッド）を整備
- 8.16 第2代所長 吉野文郁就任

●1966年（昭和41年）

- 3.31 事務室、保存室、検査室を増築（全建設面積 381.08㎡）となる

●1967年（昭和42年）

- 2.24 血液運搬車車庫を新築（45.37㎡）

●1968年（昭和43年）

- 3.26 移動採血車おとおね3号（2ベッド）を整

備（採血車3台となる）

- 9. 4 移動採血車第1号を廃車（37年整備）（採血車2台となる）

●1969年（昭和44年）

- 3. O型力価測定廃止

●1970年（昭和45年）

- 1.24 開設以来延べ献血者10万人達成
- 9. 不規則抗体スクリーニング検査開始

●1971年（昭和46年）

- 4. 1 血液代金差額について国庫補助を受ける（昭61.3.31廃止）
- 4.15 群馬県交通安全保障協会より血液運搬車1台寄贈
- 7. 1 HBs抗原検査開始（SRID法）開始
- 9. 4 移動採血車車庫を新築（108㎡）

●1972年（昭和47年）

- 1. 1 免疫電気泳動法（IES法）にてHBs抗原・抗体検査を開始
- 3.23 移動採血車おとおね1号（3ベッド）を整備（採血車3台となる）

●1973年（昭和48年）

- 6.21 赤十字アルブミン20販売開始
- 11.20 移動採血車おとおね2号（4ベッド）を更新（40年整備）

●1974年（昭和49年）

- 4. 1 血液代金自己負担金給付制度開始（昭61.4月廃止）
- 9.24 成分製剤11品目の許可を受ける

●1975年（昭和50年）

- 1.15 はたちの献血キャンペーンはじまる
- 8.19 移動採血車おとおね3号（4ベッド）を更新（43年整備）
- 10. 梅毒検査緒方法よりRPR法に変更

●1976年（昭和51年）

- 10. 2 成分製剤2品目追加許可を受ける
- 11.27 トヨタ・カローラ群馬、カローラ高崎より献血運搬車1台寄贈

●1977年（昭和52年）

- 6. 7 上毛新聞社「愛の募金」より献血運搬車

- 1 台寄贈
- 12. 1 物置を新築28.32㎡

●1978年（昭和53年）

- 3. 4 開設以来延べ献血者数50万人達成
- 10. 1 HBs抗原検査IES法よりR-PHA法に変更

●1979年（昭和54年）

- 11. 1 採血容器を瓶からバッグに全面変更する
- 11.26 移動採血車おとね5号（5ベッド）を整備（採血車4台となる）

●1980年（昭和55年）

- 3.26 検査サービス室、製剤準備室を増設（本館全建物面積 417.14㎡）
- 7. 肝機能検査S-GOTよりS-GPTに変更
- 10. 1 献血登録制を始める

●1981年（昭和56年）

- 5. 7 生化学的検査機器ACA6008Nを導入
- 6. 2 抗HBs人免疫グロブリン「日赤」の販売開始
- 9. 1 生化学的検査結果の異常者への通知を開始
肝機能異常者でHBs抗原陽性者へ通知を開始
- 12.18 日本石油より献血運搬車 日産 セドリック（ミスターセイフティー号）1台寄贈

●1982年（昭和57年）

- 4. 1 献血手帳の一部改正となる（供給記録欄を削除）
生化学的検査結果全員通知を開始
- 8.27 移動採血車おとね1号（4ベッド）を更新（47年整備）
- 9. 1 HBs抗原検査結果陽性者に通知を開始

●1983年（昭和58年）

- 8. 9 開設以来延べ献血者100万人達成

●1984年（昭和59年）

- 3. 8 血液製剤1品目（分画プラズマ）の製造許可を受ける
- 4. 5 赤十字アルブミン50供給販売開始
- 7.24 移動採血車おとね3号（4ベッド）を更新（50年整備）
- 12.20 県、市町村の補助を受け血液センターを新築移転（建物面積2,660.07㎡、車庫480㎡、物置7.2㎡）

- 12.24 医薬品製造業許可第8581号を受け業務開始
血液センター採血業許可証 厚生省収薬第34214号
成分製剤2品目の追加製造承認を受ける



●1985年（昭和60年）

- 3.28 HBワクチン用製剤2品目追加製造許可を受ける
- 3.31 国庫金による血液代金給付制度廃止
- 7.30 移動採血車おとね6号（4ベッド）を整備（採血車5台となる）

●1986年（昭和61年）

- 4. 1 採血及び供血幹旋業取締法施行規則の一部改正（400mL・成分献血が導入）
第3代所長 藤井佐司就任
群馬県献血推進員2名設置
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更（ACA6008NよりACA8000へ）
- 9.12 移動採血車おとね2号（4ベッド）を更新（48年整備）
- 9.16 多目的血球計数装置E-4000整備
- 10. 1 HTLV- I 抗体検査開始（PA法）
- 10.16 HIV抗体検査開始（ELISA法）
- 11. 6 成分採血装置V50整備し成分採血を開始
- 12.18 血液検査（血算）サービス開始
- 12.23 移動採血車おとね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）

●1987年（昭和62年）

- 7.31 開設以来延べ献血者150万人達成
- 10. HIV抗体検査 ELISA法よりPA法に変更
- 10. 7 プラズマコレクターシステム整備

●1988年（昭和63年）

- 1.21 自動血液型判定機（グルバマチック2000）

沿革

システム整備)

- 5. 1 献血者自己申告制度 (HIV) 開始
- 9.28 大相撲大鵬親方より献血運搬車 トヨタ
コロナ (大鵬号) 1台寄贈

●1989年 (平成元年)

- 1. 8 移動採血車おとおね5号 (5ベッド) を更新 (54年整備)
- 2.10 神戸義二氏より献血運搬車カローラ (神戸号) 1台寄贈
- 3.15 成分採血装置CS3000整備
- 3.31 登録・パーソナルコンピュータ (NEC 5200) 整備
- 12.27 HCV抗体検査 (ELISA法)、HBc抗体 (HI法) 開始

●1990年 (平成2年)

- 3. 6 成分採血装置オートフェレーシスC整備
- 5.21 オープン献血実施
- 6.25 バクスター社より器材運搬車 トヨタ ハイエース1台寄贈
- 10. 8 移動採血車 (おとおね6号) 成分採血併用型に改造し採血車での成分採血を開始
- 12. 1 コンピュータトータルシステム (NEC) 整備
- 12.20 オープン採血用成分採血機材運搬車 (コースタービッグバン) 整備

●1991年 (平成3年)

- 3.11 成分採血装置NDP整備
- 4. 1 凝固因子製剤用原料血漿確保始まる (50万L)
- 9.16 4週6休制施行実施。
- 9.30 開設以来延べ献血者数200万人達成
- 12.25 群馬県骨髓データセンター業務開始

●1992年 (平成4年)

- 1.21 赤血球M・A・P (日赤) 製造許可を受ける
- 1.31 HCV抗体検査ELISA法からPHA法に変更
- 3. 1 国内自給に向け凝固因子製剤の供給販売開始 (クロスエイトM250、500、1000)
- 6. HCV陽性者通知開始 (通知基準による)
- 12. 3 赤血球M・A・P (日赤) 製造開始
- 12.19 移動採血車おとおね1号 (4ベッド) を更新 (57年整備)

●1993年 (平成5年)

- 2. 1 新登録者カード発行

- 4. 1 群馬県輸血懇話会設立
- 5. 1 成分採血装置ヘモネティクスMCS整備
- 10. 1 高崎出張所を設置 (高崎熱血倶楽部) イーストタワービル1階に開設
- 10.15 移動採血車おとおね7号 (4ベッド) を廃車 (採血車5台となる)

●1994年 (平成6年)

- 2.27 群馬県献血フェスティバル開催 (伊勢崎市民文化会館)
- 3.28 4週8休制度施行実施
- 5.18 血液X線放射線照射装置 (MRB-1520A-TV) 整備し依頼による照射血液供給を開始
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更 (ACA8000より日立7250へ)
- 9. 1 コンピュータ全国統一センターシステム (NEC) 整備
成分採血装置ミニオートフェレーシスC整備
- 11. 7 移動採血車おとおね3号 (4ベッド) を更新 (59年整備)

●1995年 (平成7年)

- 6. 1 自動感染症検査機器PK7200を整備

●1996年 (平成8年)

- 3.28 検診車の整備
- 4. 1 第4代所長に松山四郎就任
第3代所長藤井佐司名誉所長に就任
- 6.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車
スバル インプレッサ1台寄贈
- 9. 1 献血者全員の試験官方式による検体保管開始
- 9. 3 採血番号ラベルシート (IDカード) 10桁に変更
- 9.26 開設以来延べ献血者数250万人達成
- 10. 出庫可否判定における検査履歴照会開始
- 11.30 お年玉付郵便葉書寄付金より血液運搬車
三菱 レグナム1台寄贈

●1997年 (平成9年)

- 1.30 移動採血車 (お年玉付郵便葉書寄付金) おとおね6号 (4ベッド) を更新 (60年整備)
- 3.13 移動採血車おとおね2号 (4ベッド) を更新 (61年整備)
- 4. 1 医務課長設置により組織並びに処務規定の一部改正 (2部1データセンター9課1出張所17係) 改組
- 9. ヒトパルボウイルスB19抗原検査の評価

試験開始

- 10. 1 職員定数100名となる
- 12.28 血液X線照射装置 (MBR-1520A-TM) を追加整備 (2機となる)

●1998年 (平成10年)

- 2. 1 梅毒検査RPR法よりTPPA法に変更
- 3.19 オープン献血会場で血小板採血を開始
- 4. 1 週休2日制実施
職員定数105名となる
- 7. 1 放射線照射血液が承認され薬価により供給開始 (全血、赤血球M・A・P、濃厚血小板)
- 9. 1 前橋出張所 (前橋ハートランド) 大同生命前橋ビル1階に開設
- 12.21 放射線照射血液が追加承認され供給開始 (洗浄赤血球・白血球除去赤血球・解凍赤血球・合成血)

●1999年 (平成11年)

- 1.26 沖電気工業より保冷库付血液運搬車寄贈
日産 AD マックスバン保冷库付
- 2. 1 原料用血漿について当日以外の服薬者よりPPPのみの採血始める
- 2.26 移動採血車おとね7号 (4ベッド) を整備 (採血車6台となる)
- 3. 5 前橋中央ライオンズクラブより魚八景ジュニア1台寄贈
- 4. 1 採血基準の改正により献血年齢69歳まで引き上げとなる
- 5.12 統一システム全国献血者一元管理に移行となる
- 6. 2 群馬県赤十字有功会より東芝液晶データプロジェクター1台寄贈 (創立20周年記念)
- 9. 1 核酸増幅検査 (NAT) 開始

●2000年 (平成12年)

- 1. 1 HTLV-1抗体検査陽性者に通知開始
- 2. 1 核酸増幅検査 500本プールより50本プール検査に変更
- 2.29 県の助成を受け血液センター1階部分を全面改修 (供給部門に血液製品用保存室、製剤部門に二次更衣室等新設)、一部増築
- 3.17 ヒトパルボウイルスB-19抗原検査正式導入となる
- 5.16 NAT済み血小板供給を開始
- 7.26 群馬県学生献血推進連合による献血キャラバン隊を編成し県内11市長に献血推進メッセージを届ける (28日まで)

8.28 血液センター増築及び改修工事開始

- 10. 3 検診車整備 日野 リエッセII
- 11.26 高崎出張所開設以来延べ献血者10万人達成

●2001年 (平成13年)

- 2. 移動採血車おとね9号 (4ベッド) 整備 (採血車7台となる)
- 3.30 県の補助を受け増築及び改修工事竣工 (1,746.58㎡を増築し、総延べ床面積4,406.65㎡) となる
- 4. 1 第5代所長に大月邦夫就任
- 5.22 HCV抗体検査、リエントリー開始
- 7. 3 血液センター増改築竣工記念式典
- 8. 6 赤十字アルブミン25販売開始
- 12.28 開設以来延べ献血者数300万人達成

●2002年 (平成14年)

- 2.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車
日産 ウィングロード1台寄贈
- 4. 1 太田出張所「太田YOU愛」を東毛学習文化センター前に設立
HCV抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始により、HCV抗体検査陽性者希望者全員に通知を開始
- 4.10 太田出張所「太田YOU愛」東毛学習文化センター前に開設業務開始
- 7. 5 DONOR CARD集発刊
- 7.31 薬事法及び採血及び供血あっせん業取締法の一部を改正され名称も「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に変更され公布される
移動採血車おとね5号 (5ベッド) を廃車 (採血車6台となる)
- 12.31 移動採血車おとね1号 (4ベッド) を廃車 (採血車5台となる)

●2003年 (平成15年)

- 4. 1 HBc抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始によりHBc抗体検査陽性者全員に通知を開始
- 6. 1 ホームページ開設
高崎出張所改修及び増設工事竣工 (81.33㎡を増設し総延べ床面積283.37㎡) となる
- 6.13 献血者の献血歴の確認 遡及調査の実施 (梅毒・HBV・HCV及びHIV)
- 10. 1 高崎出張所 (高崎熱血倶楽部) 10周年記念式典

沿革

12.12 高崎出張所開設以来延べ献血者15万人達成



●2004年（平成16年）

- 1.30 2ヶ月間（60日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 3.31 供給冷凍室（貯留保管用）増築工事竣工（46.15㎡を増築し、総延べ床面積4,452.8㎡）となる
- 6.20 第二次血液事業統一システム導入
- 8.15 献血後情報の対応手順の変更（平16.7.30付厚生労働省「輸血用血液等遡及調査に関するガイドライン」に基づき）
- 8.28 核酸増幅検査50本プール検査より20本プール検査に変更
- 8.31 90日間貯留保管済みFFPの供給開始
- 10. 1 献血者本人確認全国実施
- 12.28 120日間貯留保管済みFFPの供給開始

●2005年（平成17年）

- 3.31 150日間貯留保管済みFFPの供給開始
- 4. 1 第6代所長に土田嘉昭就任
群馬県献血メールクラブの開始
- 7.29 6ヶ月間（180日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 11. 1 第7代所長に遠藤敬一就任

●2006年（平成18年）

- 3. 1 成分採血由来製剤の保存前白血球除去の実施
- 3.17 「複数回献血クラブ」の開始
- 7.13 群馬県立県民健康科学大学のオープン献血会場を皇太子殿下がご視察
第42回献血運動推進全国大会開催（群馬県総合スポーツセンター）
サンデン株式会社より血液運搬車 日産エクストレイル1台寄贈
富士重工業株式会社群馬製作所より血液運

搬車 スバル フォレスター1台寄贈
群馬県病院協会、（社）群馬県医師会、（社）群馬県歯科医師会、（社）群馬県薬剤師会、（社）群馬県看護協会より器材運搬車 いすゞ エルフ1台寄贈

- 8.28 日赤ポリグロビンN注5% 2.5g/50mLの販売開始
- 9.15 日赤ポリグロビンN注5% 0.5g/10mL、日赤ポリグロビンN注5% 5.0g/100mLの販売開始
- 9.23 保存前白血球除去された成分採血由来新鮮凍結血漿製剤の供給開始
- 10. 1 献血カードの導入
検査業務が埼玉県赤十字血液センターへ集約
- 10.26 血小板成分採血における保存前白血球除去及び初流血除去の実施



●2007年（平成19年）

- 1.16 全血採血由来赤血球製剤の保存前白血球除去及び初流血除去の実施
- 3. 3 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車 スバル インプレッサ1台寄贈
- 8. 1 保存前白血球除去された全血採血由来新鮮凍結血漿製剤の販売開始
- 11.14 有効期間「採血後4日間」に変更となった血小板製剤の供給開始

●2008年（平成20年）

- 2. 8 血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法（CLEIA法）へ変更（同年8月全国で導入）
- 7.21 輸血用血液製剤の新バーコード表示による製造開始
- 7.23 初流血除去を実施した成分採血由来新鮮凍結血漿の供給開始
- 8. 新NATシステムへ切り替え（HIV-1グルー

プロ及びHIV-2の検出も可能)

●2009年（平成21年）

- 1.29 前橋出張所改装工事竣工
- 2.11 前橋出張所「前橋ハートランド」10周年記念イベント開催（於 ユナイテッド・シネマ前橋）
- 3.10 移動採血車おとね3号（4ベッド）を整備
- 3.15 糖尿病関連検査（グリコアルブミン検査）の開始
- 4. 1 第8代所長に小泉武宣就任
高崎出張所（高崎熱血倶楽部）の定休日が第4月曜日に変更
- 4.23 移動採血車おとね2号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 11.23 第1回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.28 血漿分画製剤の販売名の変更に伴い、日赤ポリグロビンN5%静注5g/100mLの販売開始。他の血漿分画製剤に関しても新販売名の製剤を順次販売開始

●2010年（平成22年）

- 1.27 1980年から1996年の英国滞在歴の献血制限が「1日以上」（1泊以上）から「通算1ヶ月以上」（31日以上）に緩和
- 2. 5 血小板製剤及び成分採血由来血漿製剤の販売名の変更に伴い、（照射）濃厚血小板-LR「日赤」と（照射）濃厚血小板HLA-LR「日赤」の供給開始。成分採血由来血漿製剤については6ヶ月間（180日間）貯留保管後、順次供給開始
- 2.13 高崎城ライオンズクラブより医療用デジタル体重計1台寄贈
- 5.31 血液センター2階間仕切り改修工事竣工
- 11.23 第2回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.14 高崎出張所高崎熱血倶楽部採血業務を廃止
- 12.15 高崎出張所高崎駅献血ルームHarmony（JR高崎駅東口3階イーサイト内）業務開始
- 12.28 血球計数検査サービス（8項目）を200mL全血献血へ拡充開始

●2011年（平成23年）

- 2.15（財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッ



高崎駅献血ルームHarmony

- ド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 7 移動採血車おとね7号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 4. 9 東日本大震災対策支援要員として職員を派遣（計5回）
- 7.27 赤十字アルブミン5%静注12.5g/250mLの販売開始
- 8.16 群馬県より〔平成23年度献血・骨髄ドナー登録推進業務（緊急雇用創出事業）〕委託を受託（9.1実施）
- 11.23 第3回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

●2012年（平成24年）

- 4. 1 広域事業運営体制の開始（1部 1データセンター 6課3出張所 19係）改組
- 8. 6 献血血液の検査基準の変更
輸血後のB型肝炎対策として「HBc抗体（C.O.I.）1.0以上12.0未満かつHBs抗体価200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施
- 10. 1 シャーガス病に係る安全対策開始
- 11.23 第4回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



沿革

●2013年（平成25年）

- 1.16 「献血の同意説明書」の導入
- 1.26 日赤ポリグロビンN10%静注5g/50mL、日赤ポリグロビンN10%静注10g/100mLの販売開始
- 2. 4 太田出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事開始
- 3. 8 災害救護機材配備（タブレット型PC端末5式）
- 3.25 災害救護資材配備（雨衣・防寒着）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事完了
- 5. 2 太田出張所太田献血ルーム業務開始
- 9. 3 成分採血由来の新鮮凍結血漿の容量を450mLから480mLに変更。
3つの製剤規格容量を整数倍へ（120mL、240mL、480mL）
- 11.24 第5回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



太田献血ルーム

●2014年（平成26年）

- 1.28 災害救護機材配備（ノート型PC端末2台、デジタルカメラ1式）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 第9代所長に林 泰秀就任
- 5.11 血液事業情報システム稼働（供給部門）
- 6.25 血液事業情報システム稼働（全部門）
- 8. 1 個別NAT検査開始
- 9.29 関東甲信越ブロックでの血小板製剤分割開始
- 10. 1 検査サービス通知書（ハガキ）新様式開始
- 11.24 第6回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

●2015年（平成27年）

- 2.23 前橋出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 災害救護資材配備（発電機1台）
- 2.28 前橋出張所前橋献血ルーム業務開始
- 3.10 災害救護資材配備（スノーダンプ5台、スコップ10本、ストーブ3台）
- 3.25 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血漿分画製剤の全製剤販売終了
- 7. 8 北関東高校献血打合せ会開催
- 11.22 第7回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）

●2016年（平成28年）

- 2. 2 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッド）を整備
- 2.19 災害救護資材配備（ADバン）
- 3.20 献血模擬体験「キッズ献血」を実施（於 イオンモール高崎）
- 3.30 移動採血車おとね9号を廃車
- 4. 1 ALT検査による製品除外基準の変更
血液センター広報誌Yell創刊
- 9.13 照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給開始
- 11.23 第8回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 12.16 災害救護資機材配備（スチールラック）

●2017年（平成29年）

- 2.27 血小板採血調整システム稼働
- 2.28 災害救護資材配備（トラベルバッグ）
- 3.20 第2回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
- 3.22 災害救護資材配備（ヘルメット）
- 3.24 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 献血者の不規則抗体スクリーニングの検査法変更



前橋献血ルーム

- 5.18 国際ソロプチミスト前橋より献血広報車
スバル インプレッサ1台寄贈
- 11.18 全社統合情報システム導入
- 11.26 第9回献血感謝デー開催（於 けやき
ウォーク前橋）
- 12.19 災害救護資材配備（テント）
- 2018年（平成30年）**
 - 2.21 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.21 第3回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
 - 4. 1 第10代所長に丸山 健一就任
 - 10.29 「複数回献血クラブ」が献血Webサービス
「ラブラッド」へとリニューアル
 - 11.25 所長感謝状贈呈式開催（於 けやきウォー
ク前橋）
 - 12. 6 災害救護機材配備（スポットエアコン2台、
ダクト2本）
- 2019年（平成31年、令和元年）**
 - 1. 6 第10回献血感謝デー開催（於 けやき
ウォーク前橋）
 - 2.19 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.21 第4回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
 - 10.24 第11回献血感謝デー（於 けやきウォー
ク前橋）
 - 12.17 災害救護機材配備（大判インクジェットプ
リンター）
- 2020年（令和2年）**
 - 3.25 災害救護資材配備（非常食）
 - 4. 1 移動採血車おとね1号（4ベッド）を更新
 - 4. 1 移動採血車おとね3号（4ベッド）を更新
 - 8. 5 HEVの個別NATスクリーニング導入
 - 9.30 災害救護資材配備（ヤマハ発動機一式）
 - 10. 1 採血前検査における指先穿刺導入（移動採
血車）
 - 11.12 AKB48 Team8「群馬県代表」清水麻璃亜
さん群馬県献血推進ガールに就任
- 2021年（令和3年）**
 - 2.10 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.12 災害救護資材配備（非常食）
- 2022年（令和4年）**
 - 1.24 採血前検査（全血採血のみ）における指先
穿刺導入（県内各出張所）
 - 2. 3 災害救護機材配備（特定小電力トランシー
バー）
 - 2.16 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.25 輸血用血液製剤への添付文書の同梱廃止

組織体制

群馬県赤十字血液センター



- 所在地 〒379-2154
群馬県前橋市天川大島町
2-31-13
- 開設年月日 昭和59年12月20日
- 敷地面積 3,835.73 ㎡
- 建物の構造 本館棟／鉄筋コンクリート造
地下1階 地上2階
(塔屋付)
別館棟／鉄骨造 地上3階
(塔屋付)
- 延床面積 4,452.8㎡

高崎駅献血ルームHarmony

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 325.58㎡
- ベッド数 11ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒370-0849 群馬県高崎市八島町222 JR高崎駅東口3階 イーサイト内
TEL027-327-8139 FAX027-327-8143



前橋献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 310.19㎡
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒371-0805 群馬県前橋市南町3-9-5 (大同生命ビル1F)
TEL027-220-5522 FAX027-220-5523

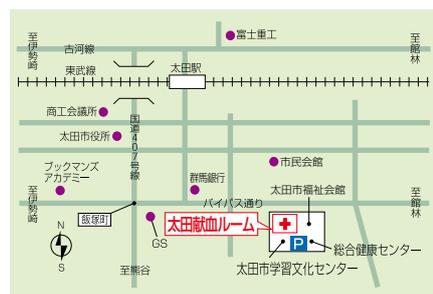


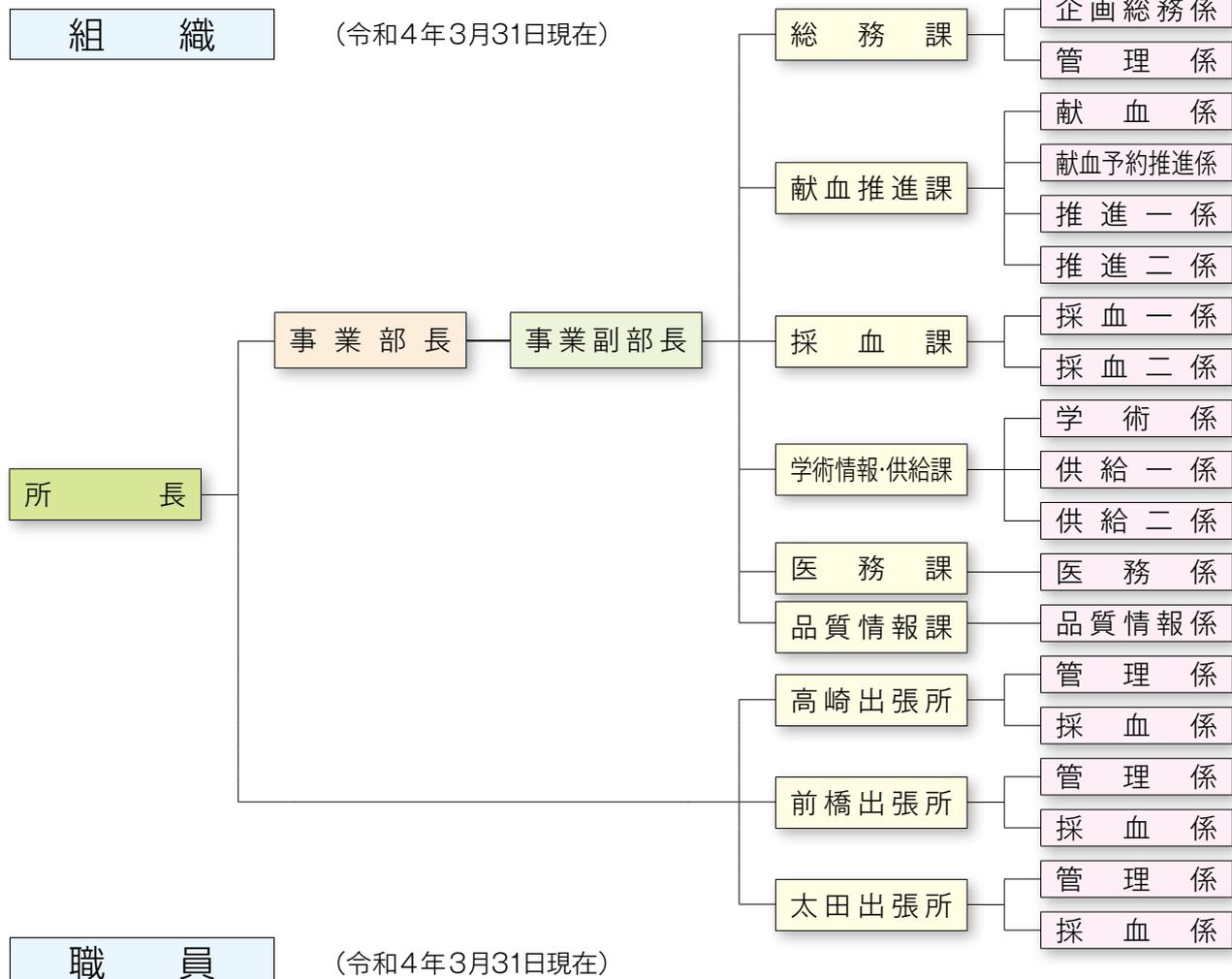
太田献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 396㎡
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549-2 (太田市学習文化センター前)
TEL0276-60-3300 FAX0276-49-3300

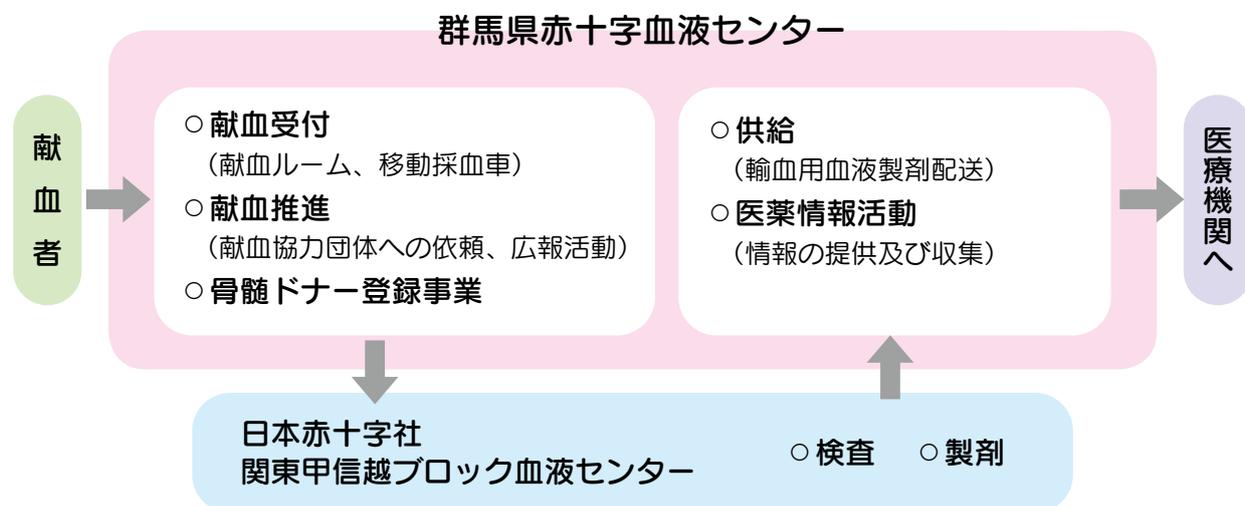




職 員 (令和4年3月31日現在)

医 師	薬 剤 師	看 護 師	事 務 職 員	合 計
1	2	30	56	89

群馬県赤十字血液センターの業務の流れ



献血の概況

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、首都圏の献血者数が減少したことから、群馬県では計画数以上の献血者確保が求められました。

コロナ禍において、県民の皆様のご理解とご協力をいただき、県内で延べ93,199名の献血協力をいただきました。おかげさまで県内の各医療機関へ輸血用血液製剤を滞りなく供給することが出来ました。また、血漿分画製剤用血漿の国内需給に向けその確保に努めることが出来ました。

献血者数については、受付者数 101,087名（前年度比100.7%）、献血者数 93,199名（前年度比101.0%）という結果でした。

献血種類別の内訳は全血献血者数 60,615名（前年度比103.5%）、成分献血者数 32,584名（前年度比96.6%）となっております。

詳細をみてみますと、全血献血者数のうち400mL献血者数は 56,867名（前年度比102.6%）、200mL献血者数は 3,748名（前年度比120.1%）となりました。200mL献血を1単位として換算すると 117,482単位（前年比103.0%）の確保をすることができました。また、全血献血中の400mL献血構成比は93.8%（前年比0.9%減）となりました。

成分献血者数のうち血小板成分献血者数は 12,868名（前年度比115.7%）、血漿成分献血者数は 19,716名（前年度比87.6%）でした。

献血推進対策としては「400mL全血献血、成分献血の推進」、「献血協賛企業の増加」、「複数回献血者（ラブラッド会員）の促進」及び「若年層献血者確保」を重点的に努めました。更に、AKB48 Team8 清水麻璃亜さんとの協力体制を構築し、キャンペーン活動やEメール、SNSを活用する等の対策を講じて広く県民の皆様へ啓発を行うことが出来ました。

今後も引き続き輸血用血液製剤の「更なる安全性の向上」及び「安定的な確保」を最重要課題として取り組んでまいります。

1 献血ルーム

■高崎出張所：愛称「高崎駅献血ルーム Harmony」

「高崎駅献血ルームHarmony」は、交通やショッピングに便利なJR高崎駅東口ローサイト内に平成22年12月15日に開設しました。駅構内という好立地にあり、内装は「音楽のある街高崎」をイメージしたとなっております。また、多くのボランティア団体に協力をいただいております、日々多くの献血者の方で賑わっております。

363日開設：受付者数 22,124名

献血者数 20,527名（1日平均献血者数56.5名、施設別構成比22.0%）

献血種類別では全血献血者数が8,982名（構成比43.8%）、内400mL献血者8,641名（400mL献血率96.2%）成分献血者数が11,545名（構成比56.2%）

■前橋出張所：愛称「前橋献血ルーム」

「前橋献血ルーム」は、県内2番目の献血ルームとして、JR前橋駅南口の大同生命ビル1階に、平成10年9月1日に開設いたしました。また、平成27年2月にロビーをリニューアル、更に、令和3年2月にソファの貼り替えを行い、暖かい陽が降りそそぐ森の中に居るようなイメージに生まれ変わりました。皆様のご支援ご協力と高等学校インターアクトクラブをはじめ多くのボランティアの方々に支えられております。

363日開設：受付者数 18,326名

献血者数 17,032名（1日平均献血者数は46.9名、施設別構成比18.3%）

献血種類別では全血献血者が6,416名（構成比37.7%）、内400mL献血者6,242名（400mL献血率97.3%）成分献血者が10,616名（構成比62.3%）

■太田出張所：愛称「太田献血ルーム」

「太田献血ルーム」は、太田市飯塚町の東毛学習文化センター（現太田市学習文化センター）前に、平成14年4月10日に開設いたしました。県内一の広さを誇り、全国的に珍しい単独平屋建ての施設です。平成25年5月2日には、広々としたロビーのカジュアルなオープンスペースのカフェスタイルにリニューアルオープンしました。また、環境に配慮した街づくりを目指す太田市に倣い、ソーラーシステムを導入したエコな献血ルームです。

362日開設：受付者数 18,860名

献血者数 17,533名（1日平均献血者数48.4名、施設別構成比18.8%）

献血種類別では全血献血者が7,110名（構成比40.6%）、内400mL献血者6,995名（400mL献血率98.4%）成分献血者が10,423名（構成比59.4%）

2 移動採血車

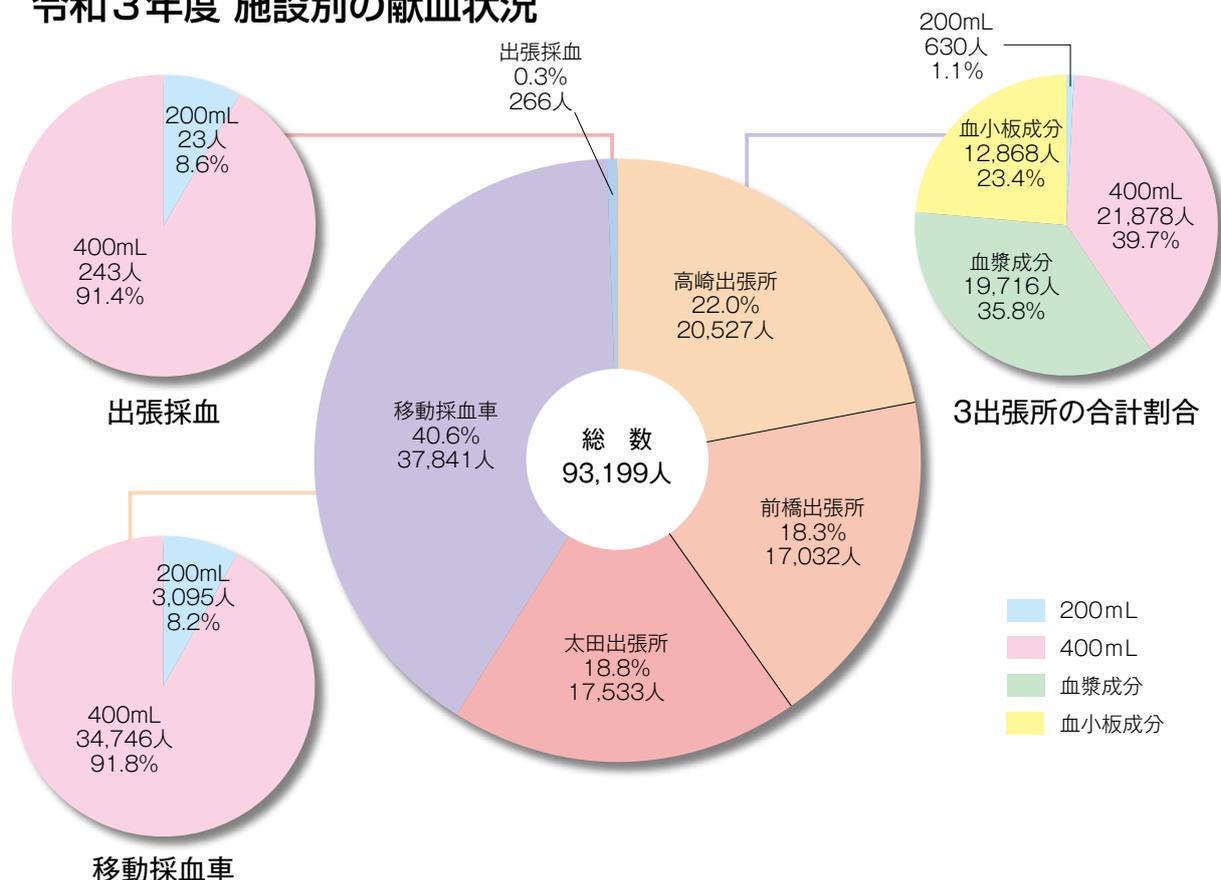
全血献血者の受入れを主として4台の移動採血バスで運用をしています。延べ788台が県内の各献血会場で献血者の受入れを行いました。受付者数は41,492名、献血者数は37,841名（1台平均48.0名）でした。なお、全血献血に占める400mL献血構成比は91.8%で前年度比1.5%の減少となりました。

令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大に伴う学域・職域会場での献血の中止が春先から相次ぎ、代替会場として地域・街頭会場での協力を得て計画数確保に努めました。

3 出張採血

移動採血バスの配車が困難な場所において会議室等を献血会場にして実施する出張献血を、4会場で行いました。受付者数は285名、献血者数は266名でした。

令和3年度 施設別の献血状況



献血推進の概況

広報・キャンペーン活動

1. 献血推進ポスター

「群馬県献血推進ガール」

AKB48 Team 8 群馬県代表 清水 麻璃亜さん



2. 第11回夏休み親子献血教室

日程 令和3年8月4日（水）

会場 群馬県赤十字血液センター

内容 血液や献血についての学習、献血バスでの献血模擬体験、血液保存庫の見学、血液運搬車の試乗



3. 全国学生クリスマス献血キャンペーン

日程 令和3年12月19日（日）

会場 スマーク伊勢崎

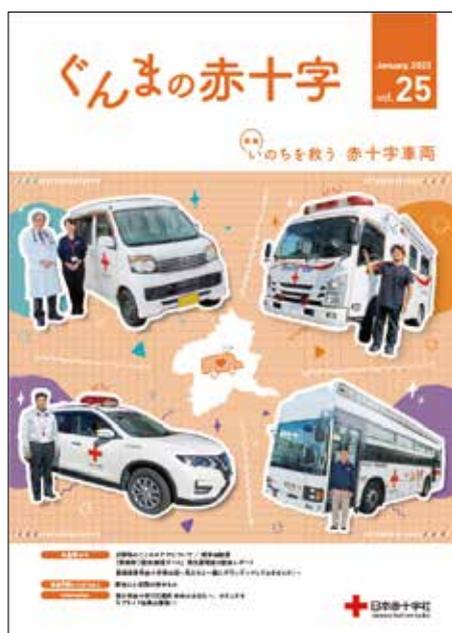
内容 学生ボランティアによる献血の呼びかけ及び献血協力者へオリジナルグッズを進呈

主催 群馬県学生献血推進連盟



4. 広報誌 ぐんまの赤十字

年1回発行



5. SNSによる情報発信

群馬県赤十字血液センター公式Facebook



FacebookID 100063535059694

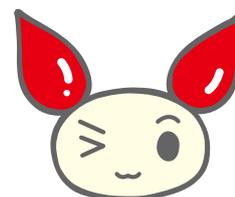
群馬県赤十字血液センター公式Twitter



@gunmakenketsu

献血Web会員サービス「ラブラッド」について

平成18年より継続的な献血協力を目的として会員募集をしてきた「複数回献血クラブ」は、平成30年10月より会員の方へのサービス向上を目的としたりニューアルとともに、愛称名を「ラブラッド」と全国で統一いたしました。ラブラッドにご登録いただくと、全国の固定施設を対象に献血のWeb予約が簡易にできるようになり、血液の検査結果も献血当日～5日程度といち早くわかるようになります。また、全国共通のポイント制度の導入により、一定のポイント数で記念品が交換できるほか、住所やメールアドレスの変更などのお手続きもWeb上で行うことが可能です。



令和元年10月より、移動採血バスの一部会場でもWeb予約のうえ献血協力が可能となりました。令和3年4月から令和4年3月末までの間に、対象となる262会場にて延べ3,094名の方にご予約をいただきました。（平均予約者数11.8名）

また、ラブラッド会員の方々への献血依頼・要請にかかるメール・LINE配信も日々行っております。血液の不足時や、医療機関から緊急の要請があった場合にも即時に情報発信ができるため、献血者と患者を繋ぐ救命のネットワークとしてその重要性は年々高まっております。その他にも県内の献血会場、キャンペーンやイベント情報のお知らせなど、献血者と血液センターを繋ぐツールとしても活用しております。

令和3年度は、献血依頼・要請メールやキャンペーン・イベントのお知らせメールを合わせて、延べ699,861件配信し28,626名（応諾率4.1%）の方にご協力をいただいております。

今後も継続的に会員数増加に努めるとともに、より良いサービスを提供し、会員の皆様にとって利便性の高い情報ツールにして参ります。

ラブラッド会員数 51,902名（令和4年3月31日現在）

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター・ロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいております。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。

※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。



献血サポーター

骨髓ドナー登録事業

日本赤十字社と骨髓データセンター事業（造血幹細胞事業）の関わりは、平成3年度に国からの依頼を受け、骨髓データバンク登録事業者として中央骨髓データセンター及び各地域骨髓データセンターを設置し、骨髓バンクドナー登録希望者を受け入れることから始まりました。

新たな動きとして日本赤十字社は、平成25年10月1日に国から「造血幹細胞提供支援機関」の指定を受けました。（関連法「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」平成26年1月1日施行）

支援機関の主な業務として、献血現場における骨髓ドナー登録推進活動が挙げられます。群馬県赤十字血液センターは、群馬県及び群馬県骨髓バンク推進連絡協議会と協同して、県内の骨髓バンクドナー登録を推進しております。

令和3年度、群馬県内の骨髓ドナー登録者数は444名でした。その内、献血バスと併行した骨髓ドナー登録会（献血併行型登録会）では、303名の登録をいただいております。

令和3年度 骨髓ドナー登録受付状況

単位：人

受付施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高崎駅献血ルーム Harmony	1	3	4	3	5	7	5	6	5	1	1	10	51
前橋献血ルーム	0	1	5	2	9	7	4	7	3	6	3	4	51
太田献血ルーム	2	4	4	1	6	6	2	6	3	2	2	1	39
献血併行型登録会	38	32	33	29	19	34	10	21	28	25	19	15	303
合計	41	40	46	35	39	54	21	40	39	34	25	30	444

令和3年度 骨髓ドナー登録取消状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
取消者数	22	19	11	33	22	12	20	26	36	28	30	36	295

取消の主な要因は、「年齢超過」や「調整結果」などによるものです。

骨髓ドナー登録状況

群馬県内 〔全国〕

総登録者数：9,848人 〔887,451人〕

実登録者数：6,242人 〔527,820人〕

登録取消者数：3,606人 〔389,646人〕

令和4年3月31日現在

群馬県内の骨髓ドナー登録受付窓口（固定施設）

○前橋献血ルーム	}	〔受付時間〕 10：00～12：00
○高崎駅献血ルーム Harmony		14：00～17：00
○太田献血ルーム	}	〔休業日〕 年末年始

検査・製剤の概況

群馬県で献血していただいた血液は、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へ運ばれ、血液型や感染症などの検査を行い輸血用血液製剤として製造されます。

その後、製造された輸血用血液製剤は群馬県赤十字血液センターに届けられ学術情報・供給課で保管しています。

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の業務



- 開設年月日 平成24年2月14日
- 所在地 〒355-0071
埼玉県東松山市大字新郷493-1
- 敷地面積 9,787.08 m²
- 建物の構造 鉄骨造地上3階建
- 延床面積 11,947.31 m²

関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所は、関東甲信越8都県（群馬県、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県、茨城県、山梨県及び東京都の一部）で献血していただいた血液の検査及び製造業務を行う施設です。

●検査

輸血による副作用や感染症予防のために血液型検査、感染症関連検査、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。

検査項目

- ・血液型検査：
A B O血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査
- ・感染症関連検査：
梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査(HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体)、C型肝炎ウイルス検査(HCV抗体)、エイズウイルス検査(HIV-1、2抗体)、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19検査
- ・生化学検査：
ALT、γ-GTP、総蛋白(TP)、アルブミン(ALB)、アルブミン対グロブリン比(A / G比)、コレステロール(CHOL)、グリコアルブミン(GA)
- ・血球計数検査：
赤血球数(RBC)、ヘモグロビン濃度(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、平均赤血球容積(MCV)、平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)、平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)、白血球数(WBC)、血小板数(PLT)
- ・核酸増幅検査：
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、E型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査

このほか、必要に応じてHLA関連検査(HLA抗原検査・HLA抗体検査・血小板抗体検査)、まれな血液型検査、サイトメガロウイルス抗体検査等を行って、患者さんに適合した輸血用血液製剤を供給しています。



検査作業



検査機器

●製 剤

現在の輸血医療は必要な成分を輸血するために成分ごとに輸血用血液製剤として調製されます。また、輸血による副作用を予防するために保存前に白血球の大部分を取り除き、血漿製剤以外には、放射線を照射しています。

このように安全性の高い血液製剤の製造を行っています。



血液成分の分離作業



放射線照射作業



フィルトレーション作業（白血球除去）

●品質管理

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用原料血漿の安全性、品質及び均質性の確保を図るために、受入試験にて原料・資材・試薬の品質確認を実施しています。また、製品抜取試験（製品試験、無菌試験、凝固試験）、白血球数試験を実施し、各製剤の品質の確認を実施しています。

さらに、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理規則（GMP省令）」に規定されている要件を遵守して、各部門の作業が適正に行われているかを管理しています。



クリーンベンチ（無菌試験用）



無菌試験（培地）

供給の概況

群馬県赤十字血液センターでは12台の献血運搬車を配備しています。24時間365日体制で、県内すべての医療機関からの注文に対し、必要な輸血用血液製剤を供給しています。また、要請に応じて緊急輸送も行っており、200件の要請がありました。

令和3年度の総供給数は80,061本で、前年度に対しては1,428本減少（前年度比98.2%）しました。供給単位数では286,097単位で、前年度[※]に対しては9,581単位減少（前年度比96.8%）しました。

[※]比較のため前年度の血漿製剤単位を平成29年度からの単位換算に変更して算出

1. 血小板製剤

供給単位数は150,065単位で、前年度に対して6,390単位減少（前年度比95.9%）でした。血小板減少症を伴う疾患や大量出血時などに使用され、今日の輸血医療においては欠かすことのできない血液製剤であり、総供給数に占める血小板製剤の構成比は52.5%と最も高くなっています。全国的な需要傾向（全国平均前年比100.2%）に対して、当県においては前年度より若干減少しました。

平成28年9月13日から、照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給を開始しました。

2. 血漿製剤

供給単位数[※]は33,489単位で、前年度に対して4,133単位減少（前年度比89.0%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比99.4%）に対して、当県においては前年度より減少しました。

[※]平成29年度より200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位、成分献血由来製剤を4単位として換算

3. 赤血球製剤

供給単位数[※]は102,543単位で、前年度に対して942単位増加（前年度比100.9%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比101.8%）に対して、当県においては前年度より若干減少しました。

[※]200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位として換算

4. 全血製剤

令和3年度は供給がありませんでした。

[※]日本赤十字社における血漿分画製剤の販売は平成27年3月をもって終了いたしました。



医薬情報活動の概況

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を「医療関係者に提供し、使用された際の情報を収集し、適切に分析・評価された結果を医療関係者へフィードバックする」これら一連の役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術情報・供給課 学術係がその業務を行っています。なかでも、輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置づけられており、平成30年1月には副作用・感染症における調査方法が一部変更されました。また、血液製剤の取り扱いに関する問い合わせの対応や医療関係者への勉強会を実施することで、有限で貴重な血液製剤を適正に使用して頂くよう活動しています。

安全かつ適正な輸血療法を目指すため、平成18年には県内医療機関、行政、血液センターが三位一体となった「群馬県合同輸血療法委員会」が設置され、事務局として委員会の活動を支援しています。平成29年度には委員会内に輸血関連看護師会を新たに設置し、県内の学会認定・臨床輸血看護師を中心に活動を開始しました。令和3年度は、厚生労働省 血液製剤使用適正化方策調査研究事業として、「Google Formを用いた外来輸血後副反応調査」を実施し、帰宅後の副反応の実態を調査しました。輸血実態調査については、外来輸血をテーマに調査を行い、第16回群馬県合同輸血療法委員会（オンラインライブ配信）では、その調査結果の報告や「web発注システムを使用して」、「新型コロナウイルス感染拡大による輸血業務への影響」といったテーマで県内医療機関から発表して頂きました。また、血液製剤の適正使用を推進する活動として行っている学術講演会についても現地開催は行わず、オンラインライブ配信にて行いました。（日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所 副所長 宮田 茂樹 先生による「新型コロナウイルス感染症におけるウイルス血症と血液の安全性確保について」）



医療関係者への情報提供

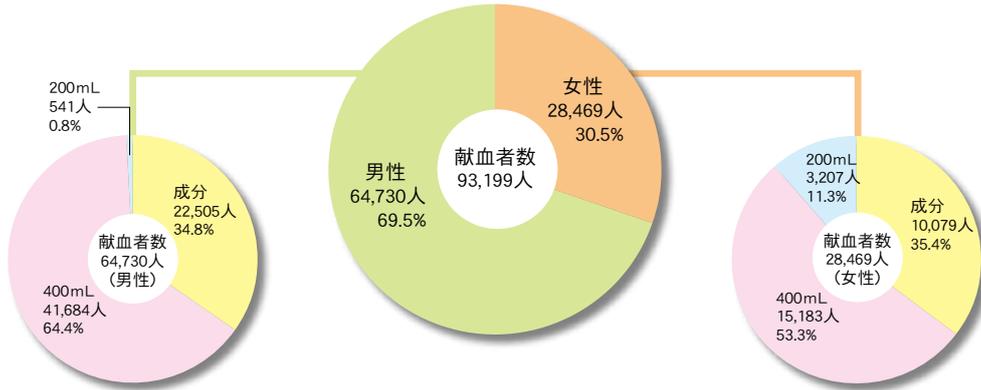


医療機関での輸血勉強会

統計資料

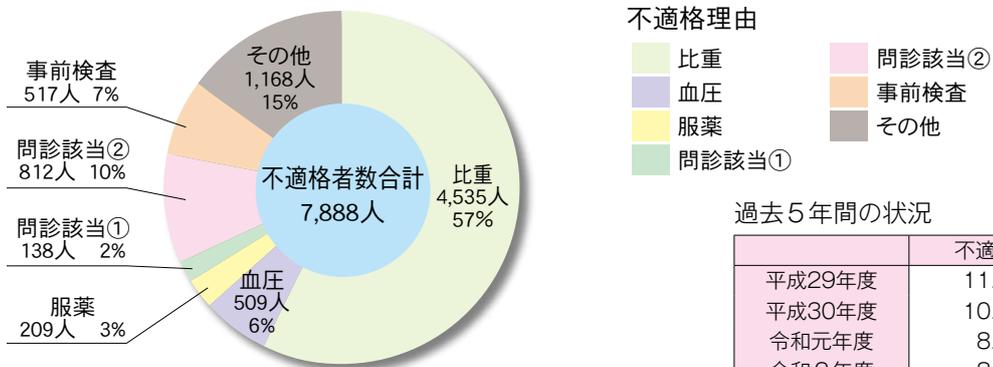
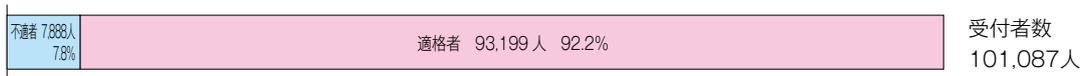
令和3年度 献血状況

年月	献血ルーム		採血車		出張		計			
	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	男	女
令和3年度計	59,310	55,092	41,492	37,841	285	266	101,087	93,199	64,730	28,469
		32,584		0		0		32,584	22,505	10,079
		21,878		34,746		243		56,867	41,684	15,183
		630		3,095		23		3,748	541	3,207



献血出来なかった人の状況

令和3年度 献血不適格者数



過去5年間の状況

年度	不適格率
平成29年度	11.2%
平成30年度	10.8%
令和元年度	8.6%
令和2年度	8.1%
令和3年度	7.8%

比 重 … 血液比重又は色素量が採血基準を満たさない場合

血 圧 … 血圧が採血基準を満たさない場合

服 薬 … 注射・服薬の状態が問診の基準を満たさない場合

問診該当① … B型C型肝炎ウイルス保有者、輸血歴・臓器移植歴のある人、C型肝炎の既往、慢性B型肝炎、原因不明の肝炎の既往、乾癬の治療にチガソン服用、梅毒の既往、マラリアの既往、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の関連事項、HIVの関連事項、シャーガス病・アフリカトリパノソーマ症、リーシュマニア症の既往、バベシア症、vCJDに関連した欧州滞在歴

問診該当② … 問診該当①以外に問診上不適格な理由がある場合（体調不良、海外帰国後4週間以内等）

事 前 検 査 … 血算・心電図・検尿、体温（37.5℃以上）、脈拍数等で不適格の場合

そ の 他 … 献血者の意思変更、時間無し、血管が細いなどの理由で不適格の場合

献血不適格者の状況

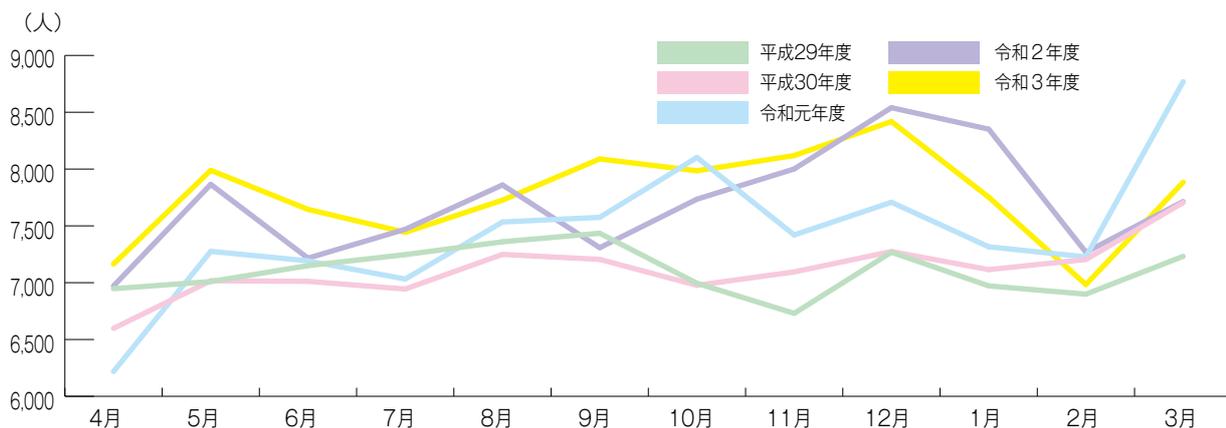
不適格理由	比 重	血 圧	服 薬	問診該当①	問診該当②	事前検査	その他	合 計
男	944	351	127	76	490	329	477	2,794
女	3,591	158	82	62	322	188	691	5,094
合 計	4,535	509	209	138	812	517	1,168	7,888

令和3年度 市町村別献血者数

	人口 (A)	受付者数	全血献血者数			成分献血者数			総献血者数 (B)	献血率(%) (B)/(A)
			200mL	400mL	計	血小板成分	血漿成分	計		
合計	1,918,641	101,087	3,748	56,867	60,615	12,868	19,716	32,584	93,199	4.9%
前橋ルーム		18,326	174	6,242	6,416	4,088	6,528	10,616	17,032	
高崎ルーム		22,124	341	8,641	8,982	4,083	7,462	11,545	20,527	
太田ルーム		18,860	115	6,995	7,110	4,697	5,726	10,423	17,533	
管内 合計		41,777	3,118	34,989	38,107	0	0	0	38,107	
前橋市	329,685	9,183	710	7,678	8,388	0	0	0	8,388	2.5%
前橋市保健所管内 計	329,685	9,183	710	7,678	8,388	0	0	0	8,388	2.5%
高崎市	371,020	6,881	843	5,428	6,271	0	0	0	6,271	1.7%
高崎市保健所管内 計	371,020	6,881	843	5,428	6,271	0	0	0	6,271	1.7%
渋川市	73,202	1,699	180	1,379	1,559	0	0	0	1,559	2.1%
榛東村	14,185	505	7	467	474	0	0	0	474	3.3%
吉岡町	22,120	339	13	296	309	0	0	0	309	1.4%
保健福祉事務所管内 計	109,507	2,543	200	2,142	2,342	0	0	0	2,342	2.1%
伊勢崎市	210,929	6,418	146	5,667	5,813	0	0	0	5,813	2.8%
玉村町	35,755	598	14	525	539	0	0	0	539	1.5%
保健福祉事務所管内 計	246,684	7,016	160	6,192	6,352	0	0	0	6,352	2.6%
安中市	53,941	1,030	29	943	972	0	0	0	972	1.8%
保健福祉事務所管内 計	53,941	1,030	29	943	972	0	0	0	972	1.8%
藤岡市	62,224	1,360	39	1,204	1,243	0	0	0	1,243	2.0%
上野村	1,106	40	3	32	35	0	0	0	35	3.2%
神流町	1,572	60	7	46	53	0	0	0	53	3.4%
保健福祉事務所管内 計	64,902	1,460	49	1,282	1,331	0	0	0	1,331	2.1%
富岡市	46,481	1,153	37	1,007	1,044	0	0	0	1,044	2.2%
下仁田町	6,255	121	13	99	112	0	0	0	112	1.8%
南牧村	1,509	16	0	15	15	0	0	0	15	1.0%
甘楽町	12,276	84	7	71	78	0	0	0	78	0.6%
保健福祉事務所管内 計	66,521	1,374	57	1,192	1,249	0	0	0	1,249	1.9%
中之条町	15,005	294	48	221	269	0	0	0	269	1.8%
長野原町	5,000	72	3	67	70	0	0	0	70	1.4%
嬬恋村	8,575	161	5	146	151	0	0	0	151	1.8%
草津町	5,923	85	1	78	79	0	0	0	79	1.3%
高山村	3,354	25	0	24	24	0	0	0	24	0.7%
東吾妻町	12,308	627	26	549	575	0	0	0	575	4.7%
保健福祉事務所管内 計	50,165	1,264	83	1,085	1,168	0	0	0	1,168	2.3%
沼田市	44,452	1,196	142	949	1,091	0	0	0	1,091	2.5%
片品村	3,856	90	1	78	79	0	0	0	79	2.0%
川場村	3,411	147	11	122	133	0	0	0	133	3.9%
昭和村	6,719	48	3	38	41	0	0	0	41	0.6%
みなかみ町	16,717	530	28	466	494	0	0	0	494	3.0%
保健福祉事務所管内 計	75,155	2,011	185	1,653	1,838	0	0	0	1,838	2.4%
太田市	221,453	3,639	277	3,034	3,311	0	0	0	3,311	1.5%
保健福祉事務所管内 計	221,453	3,639	277	3,034	3,311	0	0	0	3,311	1.5%
桐生市	103,739	2,189	311	1,688	1,999	0	0	0	1,999	1.9%
みどり市	49,069	463	17	412	429	0	0	0	429	0.9%
保健福祉事務所管内 計	152,808	2,652	328	2,100	2,428	0	0	0	2,428	1.6%
館林市	74,633	1,439	126	1,140	1,266	0	0	0	1,266	1.7%
板倉町	13,810	225	31	173	204	0	0	0	204	1.5%
明和町	10,646	195	23	154	177	0	0	0	177	1.7%
千代田町	10,677	332	7	305	312	0	0	0	312	2.9%
大泉町	41,792	356	5	335	340	0	0	0	340	0.8%
邑楽町	25,242	177	5	153	158	0	0	0	158	0.6%
保健福祉事務所管内 計	176,800	2,724	197	2,260	2,457	0	0	0	2,457	1.4%

人口データ：群馬県企画部統計課作成「移動人口調査」令和4年3月1日現在

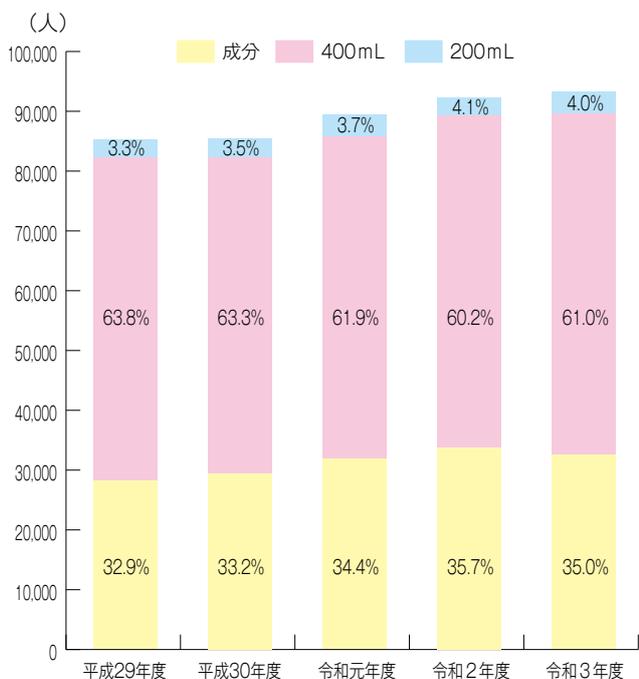
過去5年間の月別献血状況



(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度別月平均
平成29年度	6,947	7,010	7,150	7,247	7,360	7,435	6,995	6,730	7,268	6,972	6,899	7,232	85,245	7,104
平成30年度	6,598	7,017	7,012	6,944	7,249	7,205	6,977	7,095	7,274	7,115	7,204	7,705	85,395	7,116
令和元年度	6,218	7,276	7,192	7,032	7,534	7,575	8,102	7,420	7,708	7,316	7,227	8,769	89,369	7,447
令和2年度	6,971	7,865	7,216	7,470	7,860	7,308	7,735	8,001	8,540	8,351	7,268	7,714	92,299	7,692
令和3年度	7,164	7,989	7,645	7,443	7,726	8,089	7,985	8,119	8,418	7,753	6,984	7,884	93,199	7,767
月別平均	6,780	7,431	7,243	7,227	7,546	7,522	7,559	7,473	7,842	7,501	7,116	7,861		

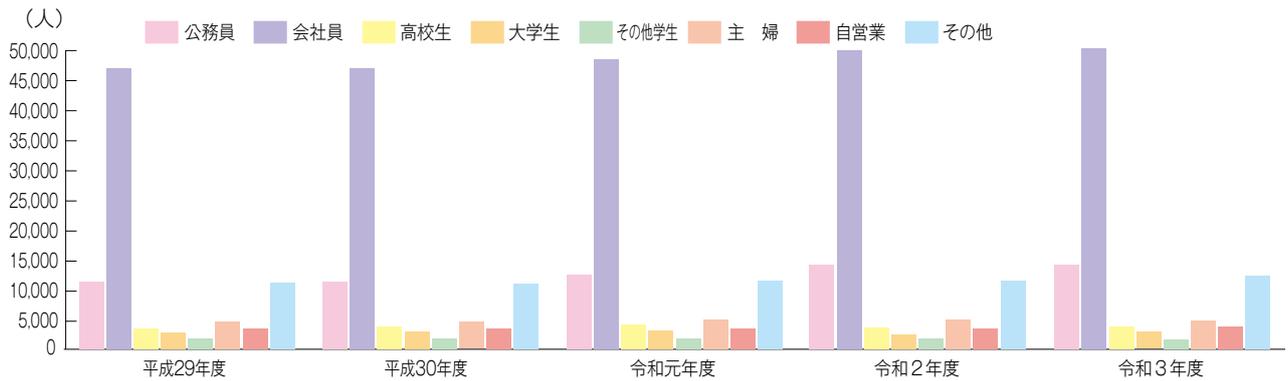
過去5年間の採血別献血者状況



(人)

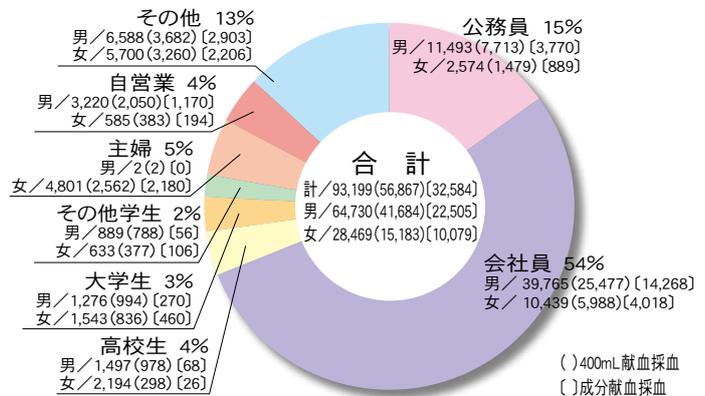
年度 種別	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
成分	28,304	29,378	31,936	33,730	32,584
400mL	53,984	52,860	53,786	55,448	56,867
200mL	2,957	3,157	3,647	3,121	3,748
合計	85,245	85,395	89,369	92,299	93,199

過去5年間の職業別献血者状況

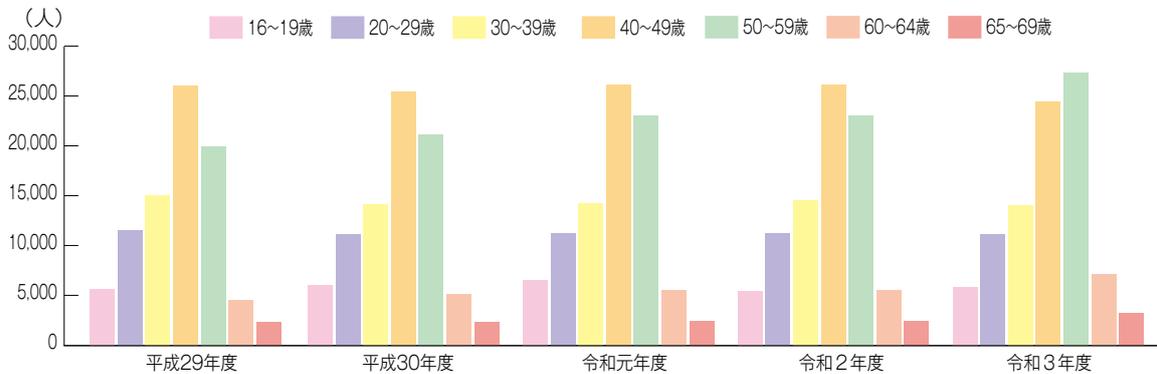


令和3年度職業別献血者数

職業別	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
公務員		11,322	11,302	12,382	14,055	14,067
会社員		46,952	46,990	48,481	49,913	50,204
高校生		3,352	3,700	4,114	3,601	3,691
大学生		2,739	2,891	3,037	2,465	2,819
その他学生		1,750	1,697	1,692	1,491	1,522
主婦		4,644	4,496	4,843	4,860	4,803
自営業		3,417	3,407	3,414	3,577	3,805
その他		11,069	10,912	11,406	12,337	12,288
合計		85,245	85,395	89,369	92,299	93,199

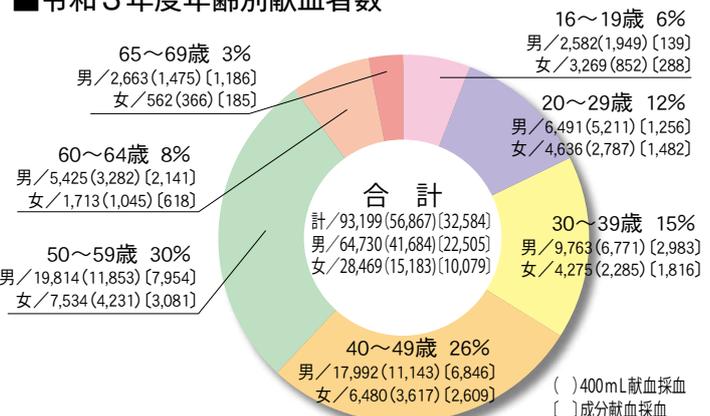


過去5年間の年齢別献血者状況



令和3年度年齢別献血者数

年齢別	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
16~19歳		5,665	6,027	6,528	5,460	5,851
20~29歳		11,601	11,148	11,222	11,293	11,127
30~39歳		15,060	14,147	14,297	14,562	14,038
40~49歳		26,076	25,476	26,146	26,071	24,472
50~59歳		19,961	21,127	23,094	25,732	27,348
60~64歳		4,558	5,141	5,597	6,296	7,138
65~69歳 [※]		2,324	2,329	2,485	2,885	3,225
合計		85,245	85,395	89,369	92,299	93,199



※平成11年4月1日より60~64歳のあいだに献血経験のある方に限り65~69歳の献血が可能となった。

血液型別供給本数(管内)

(単位：本)

全血製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	人全血液-LR「日赤」		WB-LR-1	0	0	0	0
		WB-LR-2	0	0	0	0	0
照射人全血液-LR「日赤」		Ir-WB-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-WB-LR-2	0	0	0	0	0
	合計		0	0	0	0	0

(単位：本)

赤血球製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	赤血球液-LR「日赤」		RBC-LR-1	0	0	0	0
		RBC-LR-2	933	576	453	159	2,121
照射赤血球液-LR「日赤」		Ir-RBC-LR-1	880	745	535	191	2,351
		Ir-RBC-LR-2	17,761	14,557	10,569	5,064	47,951
洗浄赤血球液-LR「日赤」		WRC-LR-1	0	0	0	0	0
		WRC-LR-2	0	0	0	0	0
照射洗浄赤血球液-LR「日赤」		Ir-WRC-LR-1	10	15	5	0	30
		Ir-WRC-LR-2	1	7	1	0	9
解凍赤血球液-LR「日赤」		FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
照射解凍赤血球液-LR「日赤」		Ir-FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
合成血液-LR「日赤」		BET-LR-1	0	0	0	0	0
		BET-LR-2	0	0	0	0	0
照射合成血液-LR「日赤」		Ir-BET-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-BET-LR-2	0	0	0	0	0
	合計		19,585	15,900	11,563	5,414	52,462

*平成26年8月より、赤血球濃厚液-LR「日赤」RCC-LR、照射赤血球濃厚液-LR「日赤」Ir-RCC-LRは、赤血球液-LR「日赤」RBC-LR、照射赤血球液-LR「日赤」Ir-RBC-LRへ変更。

(単位：本)

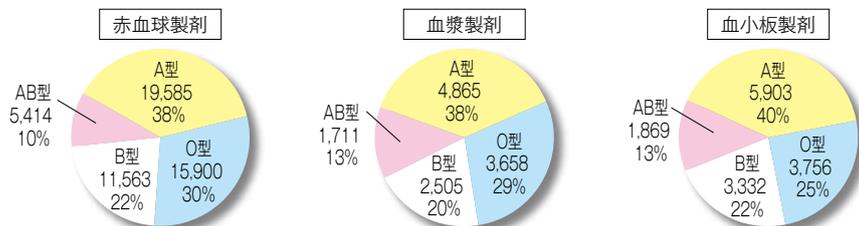
血漿製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」	120	FFP-LR 120	37	69	122	11
240		FFP-LR 240	3,015	2,457	1,619	1,284	8,375
480		FFP-LR 480	1,813	1,132	764	416	4,125
	合計		4,865	3,658	2,505	1,711	12,739

*平成25年9月より、新鮮凍結血漿-LR「日赤」FFP-LR-1・FFP-LR-2・FFP-LR-Apは、FFP-LR 120・FFP-LR 240・FFP-LR 480へ変更。

(単位：本)

血小板製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	濃厚血小板-LR「日赤」		PC-LR-1	0	0	0	0
		PC-LR-2	0	0	0	0	0
		PC-LR-5	0	0	0	0	0
		PC-LR-10	106	79	40	35	260
		PC-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-LR-20	0	0	0	0	0
照射濃厚血小板-LR「日赤」		Ir-PC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-2	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-5	38	22	14	4	78
		Ir-PC-LR-10	5,252	3,434	3,062	1,753	13,501
	Ir-PC-LR-15	10	7	18	0	35	
	Ir-PC-LR-20	77	50	14	18	159	
濃厚血小板HLA-LR「日赤」		PC-HLA-LR-10	10	1	0	0	11
		PC-HLA-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
照射濃厚血小板HLA-LR「日赤」		Ir-PC-HLA-LR-10	197	116	177	52	542
		Ir-PC-HLA-LR-15	5	3	1	1	10
		Ir-PC-HLA-LR-20	3	0	1	0	4
照射洗浄血小板-LR「日赤」		Ir-WPC-LR	157	44	3	6	210
照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」		Ir-WPC-HLA-LR	48	0	2	0	50
	合計		5,903	3,756	3,332	1,869	14,860

*平成28年9月より、照射洗浄血小板-LR「日赤」、照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」供給開始

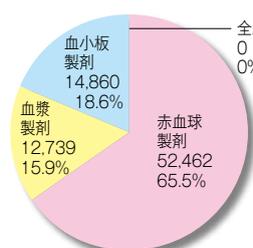


血液製剤種類別供給数(管内)

(単位：本)

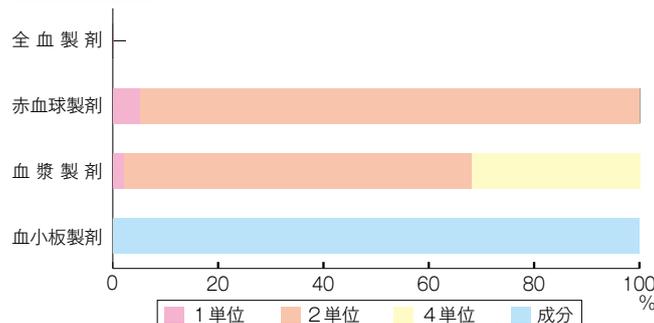
	1単位製剤	2単位製剤	4単位製剤	成分				本数合計	換算本数
				5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	2,381	50,081	0	0	0	0	0	52,462	102,543
血漿製剤	239	8,375	4,125	0	0	0	0	12,739	33,489
血小板製剤	0	0	0	78	14,574	45	163	14,860	150,065
合計	2,620	58,456	4,819	78	14,574	45	163	80,061	286,097

本数合計

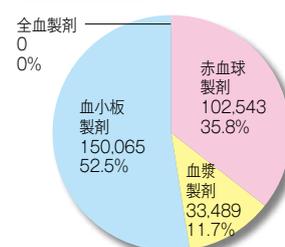


80,061本
(実本数)

献血由来別



換算本数



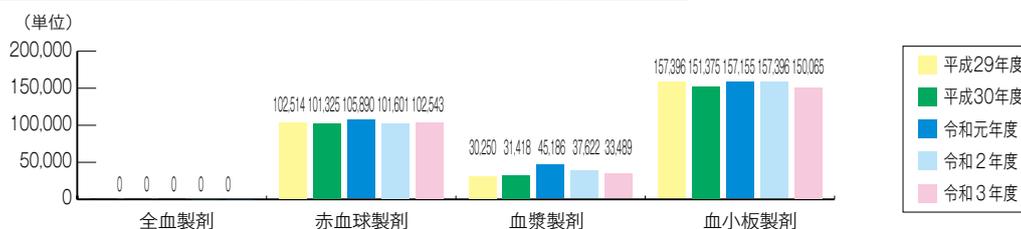
286,097本
(単位：200mL量換算)

輸血用血液製剤の推移(管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成29年度	284,139	0	102,514	30,250	157,396
平成30年度	289,898	0	101,325	31,418	151,375
令和元年度	293,578	0	105,890	45,186	157,155
令和2年度	295,678	0	101,601	37,622	157,396
令和3年度	286,097	0	102,543	33,489	150,065

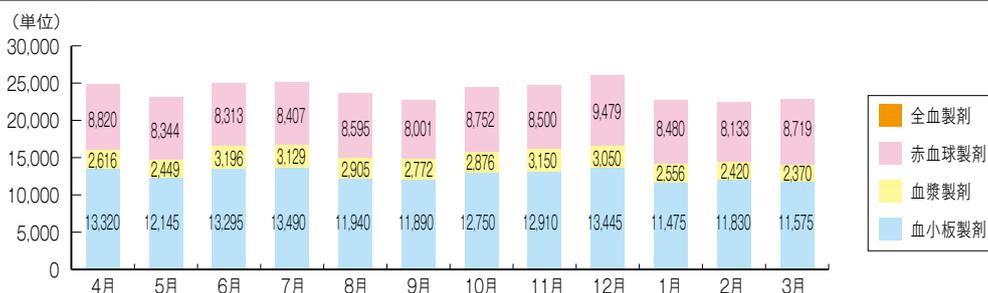
※平成29年度より血漿製剤の単位換算を変更



月別供給本数(管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	102,543	8,820	8,344	8,313	8,407	8,595	8,001	8,752	8,500	9,479	8,480	8,133	8,719
血漿製剤	33,489	2,616	2,449	3,196	3,129	2,905	2,772	2,876	3,150	3,050	2,556	2,420	2,370
血小板製剤	150,065	13,320	12,145	13,295	13,490	11,940	11,890	12,750	12,910	13,445	11,475	11,830	11,575
合計	286,097	24,756	22,938	24,804	25,026	23,440	22,663	24,378	24,560	25,974	22,511	22,383	22,664



令和3年度表彰 (団体のみ表記) (表彰式はコロナウイルス感染症の拡大により中止)

群馬県と日本赤十字社群馬県支部は、献血協力者への感謝とともに県民各層に対し、一層の献血思想の普及と献血運動の推進を図るため、「献血推進県民大会」を開催し献血のご功労のあった方々を表彰しております。

(敬称略)

■厚労大臣 表彰状

独立行政法人国立高等専門学校機構 群馬工業高等専門学校
群馬県警察本部

笑顔と感動を届けるプロジェクト

富士見商工会青年部

日本発条株式会社 群馬工場

株式会社白沢振興公社

手島精管株式会社

■厚労大臣 感謝状

群馬日野自動車株式会社
アイオー信用金庫
医療法人上毛会 伊勢崎福島病院
西場工業株式会社

セブン-イレブン 前橋青柳町南店

株式会社プライムプラン

渋川広域消防本部

株式会社ホンダカーズ群馬 ホンダグロス群馬 前橋センター

ハナミズキ通り商店会

株式会社荻野商店

群馬県警察本部 警備部機動隊

■群馬県献血推進特別功労者 (団体)

群馬県立渋川高等学校
群馬県立渋川女子高等学校
株式会社ベイシア
王子製鉄株式会社 群馬工場

■日本赤十字社社長感謝状

公立大学法人 高崎経済大学
信越化学工業株式会社 群馬事業所
太田東ライオンズクラブ

■群馬県献血推進協議会長感謝状

公益社団法人 前橋青年会議所
公益社団法人 太田青年会議所
生活協同組合コープぐんま
群馬ヤクルト販売株式会社
株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング
加藤鉄工株式会社
オリヒロブランデュ株式会社
株式会社サニクリーン東京 群馬工場

■献血団体 金色有功章
(20年以上)

学校法人太田アカデミー 太田情報商科専門学校

■献血団体 銀色有功章
(15年以上)

館林信用金庫

■献血団体 群馬県支部長感謝状金枠
(10年以上)

医療法人 前橋北病院

医療法人 和光会 光病院

■献血団体 群馬県支部長感謝状銀枠
(5年以上)

ホクブトランスポート株式会社

■献血推進団体 金色有功章
(20年以上)

前橋東ライオンズクラブ

高崎三山ライオンズクラブ

■献血推進団体 銀色有功章
(15年以上)

一般社団法人 群馬県損害保険代理業協会

群馬セキスイハウス会

前橋ライオンズクラブ

群馬県立前橋商業高等学校 インターアクトクラブ

■献血推進団体 群馬県支部長感謝状金枠
(10年以上)

該当なし

■献血推進団体 群馬県支部長感謝状銀枠
(5年以上)

高崎東ライオンズクラブ

令和3年度迄の献血記録

項 目	年 月 日	献血者数	摘 要	備 考	
開設以来延献血者数	令和4年3月末日	4,798,905人	自昭和37年11月 至令和4年3月		
開設以来母体延献血者数	平成10年8月末日	228,910人	自昭和37年11月 至平成10年8月		
開設以来献血ルーム延献血者数	令和4年3月末日	1,122,203人	自平成5年10月 至令和4年3月		
開設以来採血車延献血者数	令和4年3月末日	3,335,572人	自昭和37年11月 至令和4年3月		
開設以来出張延献血者数	令和4年3月末日	112,220人	自平成2年4月 至令和4年3月		
年 間 最 高 人 数	昭和60年度	131,336人			
月 間 最 高 人 数	昭和60年7月	13,420人		配車台数114台	
母 体 一 日 最 高 人 数	平成7年1月21日	168人			
献血ルーム一日最高人数	平成10年9月1日	140人	前橋ハートランド オープンニング		
出張採血一日最高人数	平成3年1月7日	230人	県 庁		
採血車一日最高人数	昭和60年11月19日	861人		配車台数5台	
採血車一台最高人数	昭和55年6月13日	311人	渋川高等学校		
市民献血一日最高人数	昭和59年2月16日	356人	桐 生 市	配車台数3台	
町民献血一日最高人数	昭和63年9月9日	175人	大 間 々 町		
官庁献血一日最高人数	平成2年1月5日	327人	県 庁	配車台数2台	
事業所献血一日最高人数	昭和60年2月27日	596人	沖電気高崎事業所	配車台数3台	
大学献血一日最高人数	昭和60年6月26日	311人	群馬大学教育学部	配車台数2台	
高校献血一日最高人数	昭和61年1月20日	546人	高崎工業高等学校	配車台数3台	
団体献血一日最高人数	昭和54年8月29日	420人	大間々ライオンズクラブ	配車台数2台	
施設別年間最高献血本数	市 民 献 血	昭和59年度	2,877人	桐 生 市	配車台数延29台
	町 民 献 血	平成4年度	941人	玉 村 町	配車台数延14台
	村 民 献 血	昭和61年度	724人	笠 懸 町	配車台数延5台
	官 庁 献 血	平成元年度	1,339人	県 庁	配車台数延9台
	事 業 所 献 血	昭和61年度	3,589人	三洋電機東京製作所	配車台数延26台
	大 学 献 血	昭和60年度	1,257人	群馬大学教育学部	配車台数延10台
	高 校 献 血	平成元年度	1,197人	樹 徳 高 校	配車台数延6台
	団 体 献 血（主催）	昭和57年度	1,774人	立正佼成会高崎教会	配車台数延16台
	団 体 献 血（協力）	平成11年度	4,202人	群馬県学生献血推進連合	献血実施場所延72箇所

あ ゆ み 令和 4 年 7 月

編 集 群馬県赤十字血液センター総務課
発 行 群馬県赤十字血液センター
印 刷 上毎印刷工業株式会社

群馬県赤十字血液センター 〒379-2154 前橋市天川大島町2-31-13
電 話 027-224-2118
<https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/gunma/>

 facebook
はじめました!

QRコードをスキャンして
facebook ページへアクセス!





日本赤十字社
Japanese Red Cross Society